

宮崎市安井息軒記念館 夏秋企画展

『安井家のルーツを探る』

安井家の先祖は、出羽(山形県)に安陪氏をとなえて住んでいましたが、貞朝の時代に上州厩橋(現群馬県前橋)付近の安井村に住むようになり、安井の姓を名乗ります。安井家に関する資料を手掛かりに幾人かの先祖を取り上げてパネルで紹介します。また、数少ない息軒以前の安井家の史料も展示します。



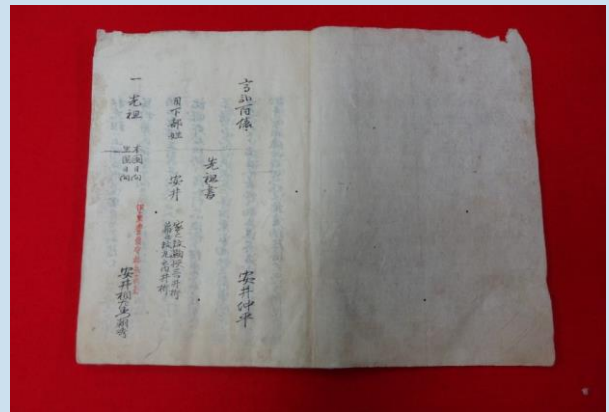
(所蔵 宮崎市)

伊東家二代藩主祐慶時代の九曜紋 (左)

飢肥藩は、三代藩主以後、熊本細川家と区別するため、星の数を一つ増やし十個にしたため、星九つ時代の旗として唯一残るのが、安井家に伝来するこの旗になります。紅色であったといわれる生地の色は退色していますが、金色の輝きは今も残っています。

息軒が残した「先祖書」 (右)

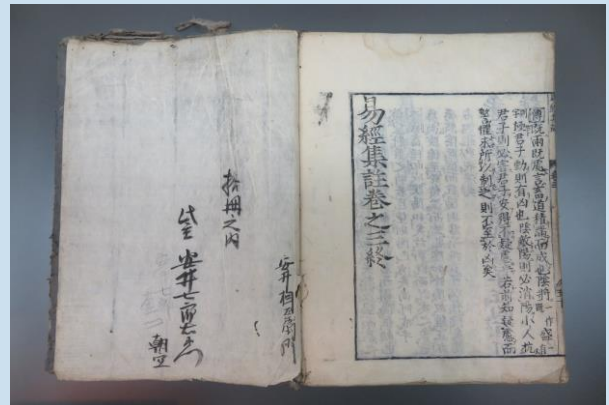
七郎左衛門朝秀(15代)の時代に多くの安井家資料を失っているため、相左衛門朝秀(18代)を先祖とする幕府提出用先祖書の下書きです。息軒の手によるもので、自身の訂正が朱書きで入れられています。



(所蔵 安井息軒顕彰会)



(所蔵 宮崎市)



易経集註(巻三)

安井家所蔵最古の手沢本です。巻末に「拾冊之内 此主安井七郎右衛門朝宣」とあり、滄洲の曾祖父朝宣の蔵書であったことがわかります。